

---

平成 30 年

# 4 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 平成30年4月の普及活動状況ダイジェスト版

### 新たなブランドづくり

#### 恵那農林■クリ・東美濃栗振興協議会 東美濃栗振興協議会に新たにぼろたん部会を設立！

4月20日、東美濃栗振興協議会では、生産者約40名の出席のもと、総会を開催し、新たに「ぼろたん部会」の設立を決定した。

渋皮が剥けるクリ「ぼろたん」の生産者で組織する「東美濃ぼろたん研究会」は平成20年度に発足。より自立した組織として発展していくため、生産者団体である東美濃栗振興協議会の部会として位置づけするよう、協議を進めてきた。

このたび、協議会総会において「ぼろたん部会」の設立が承認され、研究会組織から生産者組織へと誘導することができた。

農業普及課では、今後も「ぼろたん部会」の活動支援を通じて、高品質化や安定した販路確保を図っていく。



【設立総会の様子】

#### 革新支援センター■イネWCS 自給飼料生産法人に対してイネWCS品質改善の指導

4月12日、飛騨市役所において、飛騨市内の自給飼料生産法人ら4名に対してイネWCSの品質改善と家畜の利用性向上について指導した。

飛騨地域では、酪農家や黒毛和種繁殖農家と自給飼料生産法人が耕畜連携し、WCSの栽培調製及び給与を実施している。そこで、WCS用イネの品種特性、収穫適期、乳牛や黒毛和種繁殖牛への給与方法について説明した。

自給飼料生産法人がWCSの家畜での利用性を理解し、専用品種の特徴を生かしたWCS品質向上を実践できるよう革新支援専門員は農業普及課地域支援係と連携し支援する。



【イネWCS品質改善指導】

### 多様な担い手づくり

#### 西濃農林■なし 後継者・担い手育成～第1回「梨塾」を開催～

4月16日、大垣市曾根町において大垣市ナシ生産連絡協議会の主催により、梨生産者の後継候補者7人を対象として梨塾が開催された。大垣市の梨園は市街地に点在しており、農家の高齢化、担い手不足により縮小傾向にあるが、産地の維持及び後継者の育成を目的として年間5回の計画で塾を開催する。第1回は室内講義と現地実習が実施され、摘花、病虫害防除等について学習した。また、新技術である根圏制御栽培法のほ場において技術の概要を説明し、塾生は新技術に関心を示していた。

梨塾は、大垣市、JAにしみの、農業革新支援専門員など関係機関が一丸となって本年度より開催している。農業普及課は、梨塾のカリキュラム提案の他、現地実習での指導と情報提供及び関係機関との連絡調整を行い、梨塾の円滑な活動を支援する。



【現地実習の様子】

#### 東濃農林■農業担い手リーダー 東濃地域で12年ぶりに青年農業士が誕生

今年度、瑞浪市の花き生産者が青年農業士に認定され、東濃地域では12年ぶりに青年農業士が誕生した。

4月25日には、恵那市で恵那地区青年農業士会総会が開催され、新規認定者も出席した。新規認定者からは農業士としての抱負が述べられ、新しい仲間として迎え入れられた。今後は東濃・恵那ブロックとして青年農業士活動を行うことになる。



【抱負を述べる新規認定青年農業士】

農業普及課では、これまでも農業士等農業担い手リーダーの掘り起しと認定に向けた活動を行っているが、今後はさらに担い手リーダーの活動が活性化するように関係機関と連携し、支援を行っていく。

## 売れるブランドづくり

### 飛騨農林■果樹 安全・安心研修会を開催

4月26日、JAひだ果実出荷組合協議会は、組合員を対象に農業生産工程管理（GAP）の導入に向けた研修会を開催し、39名が参加した。

研修会では、農業普及課からGAPに関する基本的な内容の説明や岐阜県GAPを基に作成したチェックシートに関する質問事項、注意点を説明した。事前に組合員から得た事例を基に説明を実施することで、安全・安心な飛騨果実産地の維持発展に向けて生産者のGAPの取組み意識の向上を図った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、GAPチェックシートの配布や情報提供を行い、GAPの取組み支援を実施していく。



【研修会の様子】

### 岐阜農林■トマト JGAP認証取得

本巣市の共販トマト出荷者1戸では、平成30年1月から県のGAPアドバイザー派遣事業を活用して、JGAP（Basic）認証取得に向け取り組んできた。

このたび、農場審査に向け準備が整ったことから、4月7日に初回審査を受けた。数件の是正項目はあったが重大なものはなく、早速是正処置を実施し、報告書の提出後、18日に認証取得となった。

県内のトマト生産農家としても、JGAP認証取得は先進的な事例であり、農業普及課では、今後も認証維持のための支援等を継続するとともに、地域への普及に取り組んでいく予定である。



【JGAPの審査状況】

### 揖斐農林■茶 GAPアドバイザーによる荒茶加工施設等の点検を実施

池田町の2つの茶生産組合が、今年度中の県GAP管理基準の確認を目指して取り組んでいる。農業普及課では、理事会等で県GAPの説明を行ったり、記録簿の様式等の助言を行ってきた。

その1つである美濃西部製茶組合が、4月16日に県のGAPアドバイザー派遣事業を活用してアドバイザーを招き、荒茶加工施設や組合員の機械庫、資材置場、農薬保管庫等の改善について指導を受けた。

農業普及課は、今回の点検に立ち会い、改善点を共有した。今回の指導結果を活かし、県GAPの基準に適合するように、今後も引き続き、支援を行っていく。



【荒茶加工施設の点検の様子】

### 郡上農林■だいこん だいこん組合のGAP取組みを支援

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、GAPの取組みを進めており、昨年から関係者による農場状況確認や自己チェックを行ってきた。

平成30年は、だいこん組合推進事項の一つとして「農薬の適正な保管」を掲げており、農業普及課は4月16・17日にJA担当者と共に生産者巡回を行い、各生産者の農薬保管状況を確認する一方、適正な農薬保管に向け提案を行った。

農薬保管の現状は生産者により異なっており、大きな施設改修が必



【農薬庫の確認】

要な農家から簡易な取組みで県GAP基準を満たす者まで様々であるが、生産者からは農薬庫の整備に向けて前向きな意見も聞かれた。

今後農業普及課は、県事業の活用を提案しながらGAPの取組みを進めると共に、更なる産地のブランド化に向けた支援を行っていく。

### 中濃農林■さといも **里芋分離機検討会を開催**

さといもの親芋から子芋、孫芋を分離する作業は、現在手作業で行っており、大きな労力を要している。分離作業の省力化を目指し、農業普及課では、29年度から全国農業システム化事業を活用し、(株)クボタと連携して里芋分離機の開発に取り組んでいる。

試作機の完成を受け、4月11日、生産者の意見を機械改良に反映させるため、中濃里芋生産組合役員に呼びかけ、里芋分離機検討会を開催した。

役員からは、「様々な株の形状に合わせるよう工夫してほしい」「1回で分離できるようにしてほしい」といった要望が出され、11月の収穫時期までに改良を行っていく予定である。



【実演会の様子】

### 下呂農林■普及活動 **現地活動へのタブレット導入実証を開始**

下呂農林事務所では、県が進めるスマート農業の実現に向け、4月から普及活動へのICT（情報通信技術）導入実証を他地域に先駆けて実施することとなった。

実証にあたっては、各普及指導員がタブレット端末を1台ずつ持ち、農家への迅速な情報提供やSNS（ソーシャルネットワークシステム）を活用した情報交換、現地でのほ場管理データの収集・分析などを行い、得られた成果や課題をもとに効果的な普及活動の手法を検証する。



【タブレットを使って  
現地活動】

## 住みよい農村づくり

### 可茂農林■集落営農推進（美濃加茂市） **「川浦の農地を考える会」を開催**

4月13日に三和コミュニティーセンターにおいて「川浦の農地を考える会」が、集落役員や市、JA等の参加で開催された。

今回は、今後の進め方について検討された。会員からも活発に意見が出されるようになり、次回からは具体的に集落営農の組織化に向け検討できるように、各地域から連絡員を選出して進めていくことが決定された。

農業普及課では、関係機関との連携と集落での話し合いなどの取組みを通じ、地域の農地が守れる仕組みづくりを支援していく。



【会議の様子】